

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	平成27年6月9日
【発行者名】	J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 猪股 伸晃
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
【事務連絡者氏名】	内藤 敏信 (連絡場所) 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
【電話番号】	03 - 6736 - 2000
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	J P M 中小型株・アクティブ・オープン
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	2,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

．【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成26年12月9日付で提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、また記載事項の一部訂正を行うため、訂正届出書を提出いたします。

．【訂正の内容】

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）ファンドの目的及び基本的性格

（イ）ファンドの目的

<訂正前>

当ファンドは、日本の中小型株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長をはかることを目的として、アクティブ（積極的）な運用*を行います。

* 運用は、当ファンドと実質的に同一の運用の基本方針を有する「J P M中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象として行います。

「実質的に同一の運用の基本方針」とは、投資の対象とする資産の種類、運用方針、運用方法、投資の対象とする資産についての保有額もしくは保有割合にかかる制限または取得できる範囲にかかる制限その他の運用上の制限が実質的に同一（マザーファンドにおける収益分配方針およびマザーファンドへの投資にかかるものを除きます。）のものをいいます。

<訂正後>

当ファンドは、日本の中小型株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長をはかることを目的として、アクティブ（積極的）な運用*を行います。

* 運用は、当ファンドと実質的に同一の運用の基本方針を有する「G I M中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象として行います。

「実質的に同一の運用の基本方針」とは、投資の対象とする資産の種類、運用方針、運用方法、投資の対象とする資産についての保有額もしくは保有割合にかかる制限または取得できる範囲にかかる制限その他の運用上の制限が実質的に同一（マザーファンドにおける収益分配方針およびマザーファンドへの投資にかかるものを除きます。）のものをいいます。

（ニ）ファンドの特色

<訂正前>

本書で使用される名称等について、以下のとおり定義します。

（略）

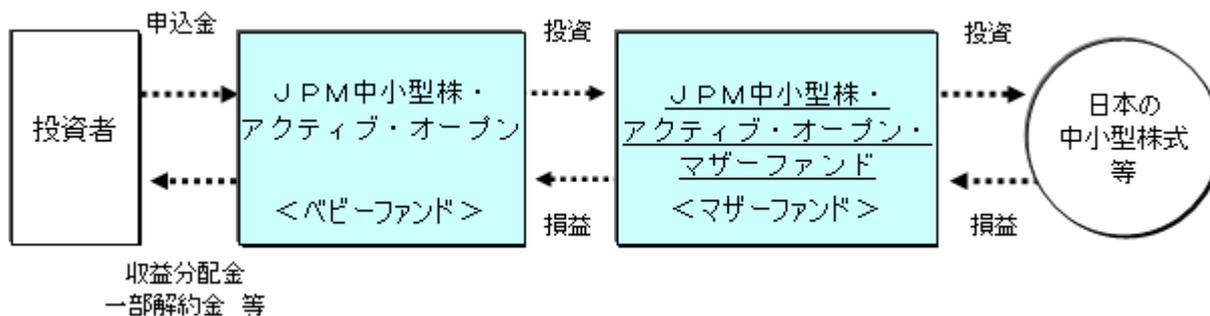
ラッセル野村中小型インデックス

（略）

<訂正後>

（略）
当ファンドの運用はファミリーファンド方式*により、マザーファンドを通じて行います。

* 「ファミリーファンド方式」とは、ベビーファンドの資金をマザーファンドに投資して、マザーファンドが実際に有価証券に投資することにより、その実質的な運用を行う仕組みです。



(以下略)

<訂正後>

本書で使用される名称等について、以下のとおり定義します。

(略)

ラッセル野村中小型インデックス

(略)

定量モデル

財務データ等の定量化（数値化）された客観的な情報を利用して、ポートフォリオのリスクを分析するモデルをいいます。

自己資本比率

自己資本と他人資本を合計したものである総資本に占める、自己資本の割合をいいます。数値が高いほど企業の安定性が高いとされます。

簿外債務

会計帳簿に計上されていない債務をいいます。たとえば、保証債務等の将来債務となる可能性がある偶発債務があります。

資産回転率

事業に投資した資産がどれだけ有効に活用されたかを示す指標をいいます。数値が高いほど、資産が効率的に売上に結びついていることを表します。

バリュエーション

企業の利益・資産等の企業価値に対して、株価が相対的に割安か割高かの判断をいいます。

PER（株価収益率）

株価を1株当たり利益で割ったものをいいます。PERが低いほどその企業の収益力に対して株価が割安であるとみることができます。

PBR（株価純資産倍率）

株価を1株当たり純資産で割ったものをいいます。PBRが低いほど資産価値に対して株価が割安であるとみることができます。

EV / EBITDA

EV（企業価値）が、EBITDA（利払前税引前償却前利益）の何倍かという指標をいいます。

EV / EBITDAの値（倍率）が低いほど、その企業の株価は割安であるとみることができます。

配当利回り

株価に対する年間配当金の割合を示す指標をいいます。

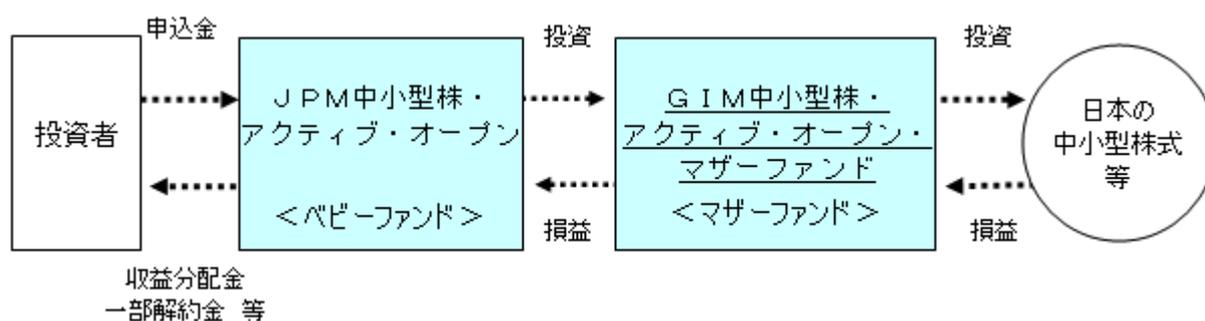
市場コンセンサス予想

市場関係者による企業業績、株価、経済指標等の予想数値のことをいいます。

（略）

当ファンドの運用はファミリーファンド方式*により、マザーファンドを通じて行います。

* 「ファミリーファンド方式」とは、ベビーファンドの資金をマザーファンドに投資して、マザーファンドが実際に有価証券に投資することにより、その実質的な運用を行う仕組みです。



（以下略）

（２）ファンドの沿革

<訂正前>

平成12年5月12日 当ファンドおよびマザーファンドの信託契約締結、ならびに設定・運用開始

平成25年12月10日 当ファンドおよびマザーファンドの名称変更

<訂正後>

平成12年5月12日 当ファンドおよびマザーファンドの信託契約締結、ならびに設定・運用開始

平成25年12月10日 当ファンドおよびマザーファンドの名称変更

平成27年5月29日 マザーファンドの名称変更

（３）ファンドの仕組み**（八）委託会社の概況**

<訂正前>

資本金 2,218百万円（平成26年10月末現在）

（略）

大株主の状況（平成26年10月末現在）

（以下略）

<訂正後>

資本金 2,218百万円（平成27年4月末現在）

（略）

大株主の状況（平成27年4月末現在）
（以下略）

2【投資方針】

（1）投資方針

（ロ）投資態度

原届出書の「第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 2投資方針（1）投資方針（ロ）投資態度、および（八）企業取材体制」について、「第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 2投資方針（1）投資方針（ロ）投資態度」として、以下の内容に更新・訂正されます。

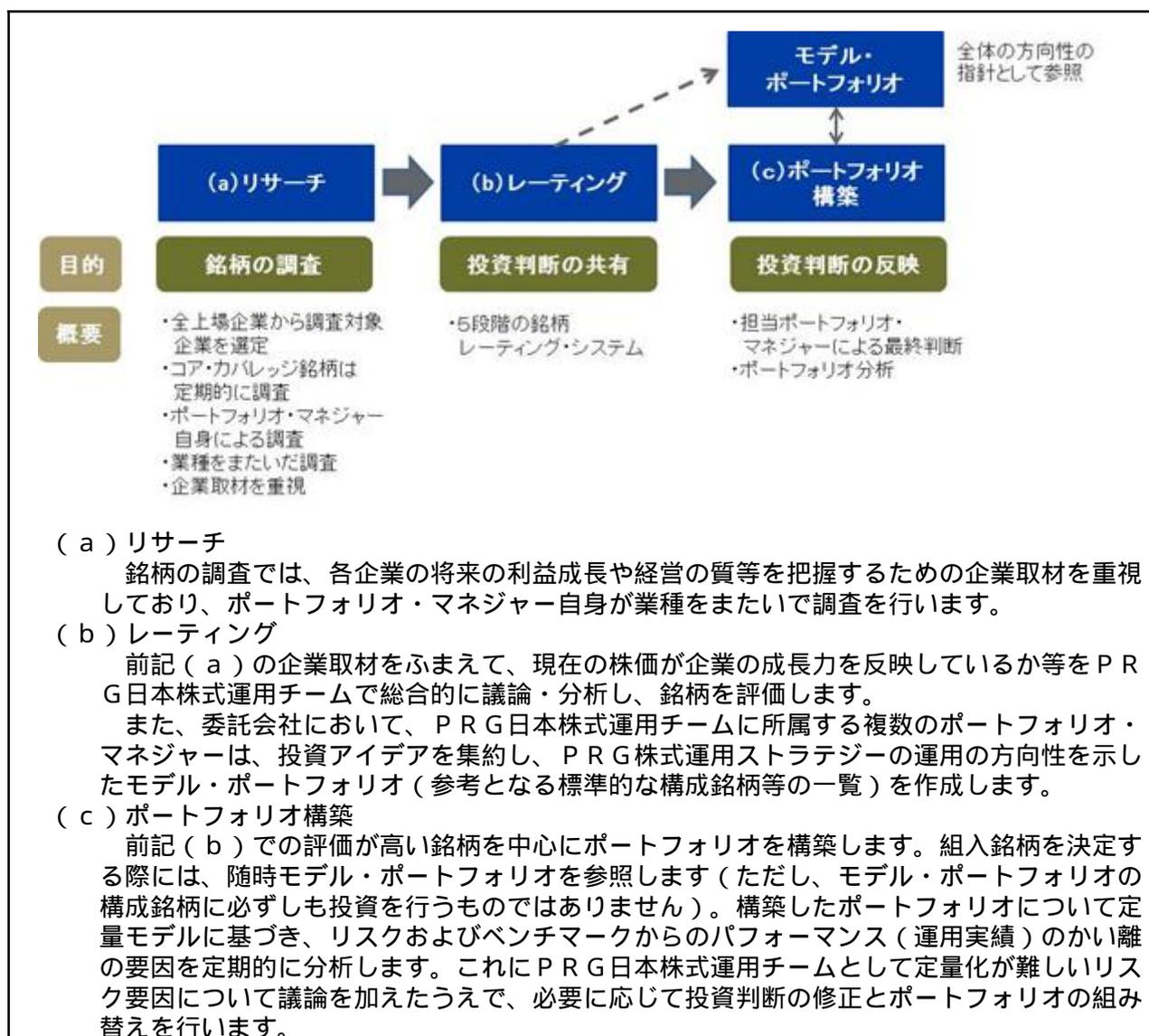
<更新・訂正後>

マザーファンドにおける投資プロセスは次のとおりです。

なお、資金動向や市況動向により、次のような運用ができない場合があります。

マザーファンドの運用は、委託会社において、PRG日本株式運用チームに所属するポートフォリオ・マネジャー（以下「マザーファンドのポートフォリオ・マネジャー」といいます。）が行います。

マザーファンドにおける運用プロセスは次のとおりです。



前記における運用プロセスの詳細は以下のとおりとなります。

(a) リサーチ

企業取材を重視

PRG日本株式運用チームでは、ポートフォリオ・マネジャー自身が業種をまたいで企業取材を行い、マザーファンドの運用に反映させています。平成26年の企業取材件数実績は、合計延べ約2,560件*になります。

* PRG日本株式運用チームの各地域のポートフォリオ・マネジャーによる日本の株式についての大型株式を含む企業取材件数の合計です。

コア・カバレッジ

PRG日本株式運用チームでは、日本の株式について、市場全体の動向を的確に分析するため、重点調査対象銘柄としてコア・カバレッジを活用します。コア・カバレッジは大型株式約250銘柄および小型株式約100銘柄で構成されます。原則、投資対象銘柄群の全ての業種から銘柄を選び、四半期毎に企業取材および銘柄評価の見直しを行います。

コア・カバレッジの活用により、大型株式から小型株式まで、業種をまたいで横断的な調査を行い、個別企業・業界の分析や投資テーマの発掘を行うことが可能となります。また、新しく魅力的な投資テーマや銘柄を発掘するため、コア・カバレッジ以外の銘柄の調査活動も積極的に行っています。

マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、コア・カバレッジを含む全ての投資銘柄群に対する企業調査の結果、各銘柄のレーティングをもとに最終的な投資判断を行います。

アジア・太平洋地域内での情報交換

PRG日本株式運用チームは、日本以外のアジア各国で企業取材を行うPRG所属のPRG株式運用ストラテジーに基づく運用を行うポートフォリオ・マネジャーと積極的に情報交換を行い、日本の周辺諸国における経済・企業動向が日本企業に与える影響を勘案し、マザーファンドの投資判断に活用します。

(b) レーティング

PRG日本株式運用チームでは、リサーチに基づいて各銘柄に5段階のレーティングを付与します。レーティングの付与にあたっては、ボトムアップ・アプローチにより企業の中長期的な成長力を把握し、現在の株価が企業の成長力を反映しているかを分析します。レーティングを決定するにあたって重視する項目と、それぞれの項目ごとに分析の対象となる指標・ポイントの例は下記の通りです。

重視する項目と分析の対象となる指標・ポイント：

将来の利益成長	→	中長期的な業界見通し 競争優位性 利益成長率 成長に必要なキャッシュフロー
財務分析	→	健全性（自己資本比率、簿外債務） 効率性（資産回転率、在庫回転期間）
経営の質	→	過去実績 明確な経営ビジョンと戦略の有無 企業統治
バリュエーション	→	PER、PBR、EV/EBITDA、配当利回り 相対評価（市場平均比、業界他社比、過去比） および絶対評価 市場コンセンサス予想からのかい離
その他	→	流動性 需給動向

レーティングによる銘柄評価の定義：

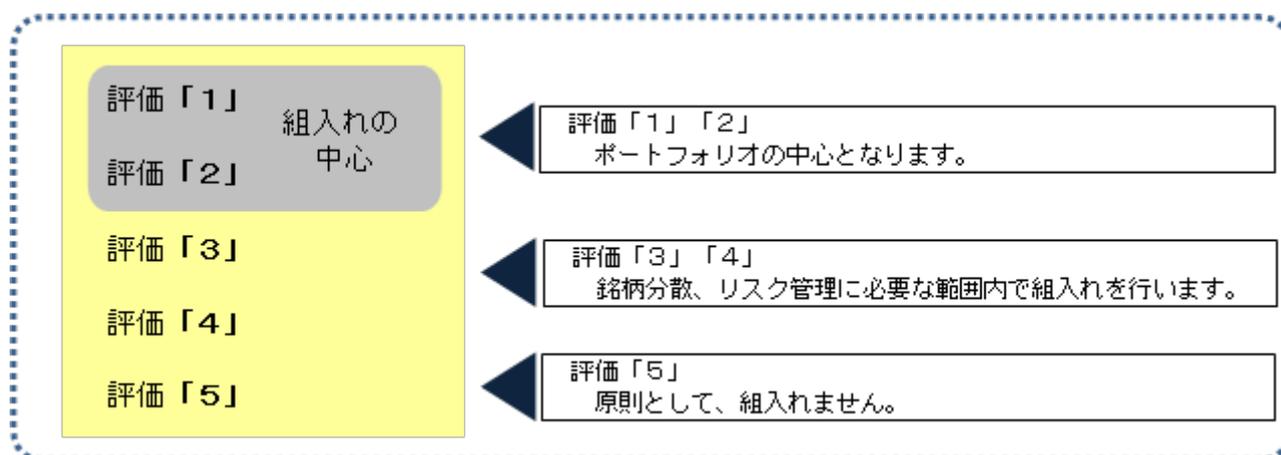
現在の株価が、企業の成長力を反映しているか分析

- 評価「1」 大幅なアウトパフォーマンス。
- 評価「2」 アウトパフォーマンス。
- 評価「3」 マーケットと同水準。
- 評価「4」 アンダーパフォーマンス。
- 評価「5」 大幅なアンダーパフォーマンス。原則としてポートフォリオに組入れない。

(モデル・ポートフォリオ)

前記の総合分析を踏まえ、委託会社において、PRG日本株式運用チームはモデル・ポートフォリオを作成します。ここでいうモデル・ポートフォリオはPRG日本株式運用チーム全体の投資アイデアの集約、運用の方向性の指針を示すものであり、各ポートフォリオ・マネジャーが随時参照しますが、実際のマザーファンドのポートフォリオとは異なります。また、モデル・ポートフォリオは随時見直されます。

(c) ポートフォリオ構築



銘柄評価を基にマザーファンドのポートフォリオ・マネジャーが、マザーファンドの投資目標、リスク許容度および運用ガイドラインを考慮し、最終的な組入れ銘柄、および各銘柄の組入れ比率を決定します。構築したポートフォリオについて定量モデルに基づき、リスクおよびベンチマークからのパフォーマンス（運用実績）のかい離の要因を定期的に分析します。これにPRG日本株式運用チームとして定量化が難しいリスク要因について議論を加えたうえで、必要に応じて投資判断の修正とポートフォリオの組み替えを行います。

実際のマザーファンドのポートフォリオでは、市場環境、売買のタイミング、流動性等の理由により、評価「1」銘柄の非保有や、評価「5」銘柄の保有が生じる場合があります。

<当ファンドまたはマザーファンドにおいて行われることがある、投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引の内容、および当該取引が投資者の利益を害しないことを確保するための措置>

委託会社は、当ファンドまたはマザーファンドにおいて、自己または第三者の利益を図るために投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引を行うことがあり、それらの内容は後記のとおりです。委託会社は、当該取引が投資者の利益を害しないことを確保するための措置として、社内規程等を制定してそれにしたがった管理を行うとともに、社内規程等の遵守状況についてモニタリングを必要に応じて行っています。当該措置の詳細については、後記「3投資リスク（2）投資リスクに関する管理体制」をご参照ください。

- F073 委託会社の関係会社である証券会社が引受けを行った有価証券のマザーファンドでの組入れ
- F073 マザーファンドにおける有価証券取引等の、委託会社の関係会社である証券会社等に対する発注
- F073 マザーファンドにおいて保有もしくは取引する有価証券または当ファンドの受益権の、委託会社またはその関係会社の役職員による売買等の取引
- F073 マザーファンドにおける有価証券取引等の発注と、委託会社が運用する他の運用資産における有価証券取引等の発注を、束ねて一括して発注すること（一括発注）
- F073 マザーファンドの運用担当者（ポートフォリオ・マネジャー、アナリスト等）が贈答、茶菓の接待等を受けた、証券会社等に対するマザーファンドにおける有価証券等の発注、または有価証券の発行体の発行する有価証券のマザーファンドでの組入れ
- F073 委託会社またはその関係会社と取引関係のある有価証券の発行体が発行する有価証券にかかる議決権のマザーファンドにおける行使
- F073 マザーファンドと、委託会社が運用する他の運用資産間において行う有価証券等の取引（クロス取引）
- F073 委託会社による当ファンドの受益権の取得申込みおよび換金

（２）投資対象

< 訂正前 >

（略）

（参考）マザーファンドの投資対象

- （イ）委託会社は、信託金を、主として次の有価証券（金融商品取引法第 2 条第 2 項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。以下（イ）において同じ。）に投資することを指図します。（JP M 中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド約款（以下「マザーファンド信託約款」といいます。））
- （以下略）

< 訂正後 >

（略）

（参考）マザーファンドの投資対象

- （イ）委託会社は、信託金を、主として次の有価証券（金融商品取引法第 2 条第 2 項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。以下（イ）において同じ。）に投資することを指図します。（G I M 中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド約款（以下「マザーファンド信託約款」といいます。））
- （以下略）

（３）運用体制

< 訂正前 >

（略）

（注）前記の運用体制、組織名称等は、平成26年9月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（以下略）

< 訂正後 >

（略）

（注）前記の運用体制、組織名称等は、平成27年3月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（以下略）

3【投資リスク】

(1) リスク要因

原届出書の「第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 3投資リスク (1) リスク要因」の末尾に記載される「参考情報」について以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

参考情報

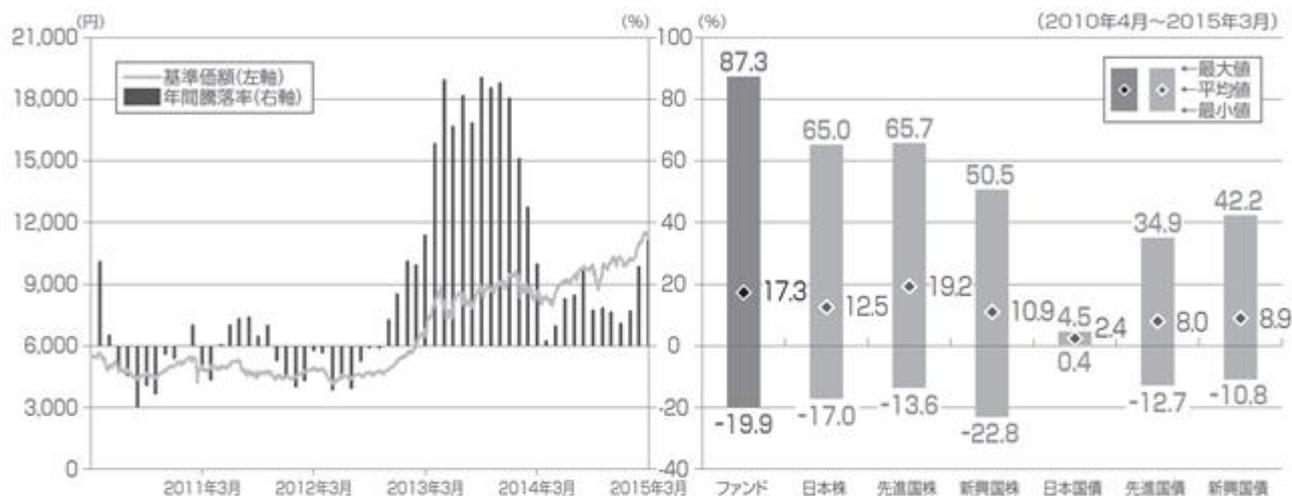
下記グラフは、ファンドの投資リスクをご理解いただくための情報の一つとしてご利用ください。

<ファンドの基準価額・年間騰落率の推移>

2010年4月～2015年3月の5年間に於ける、ファンドの基準価額(日次)と、年間騰落率(毎月末時点)の推移を示したものです。

<ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較>

左のグラフと同じ期間における年間騰落率(毎月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。



(ご注意)

- 基準価額は、信託報酬控除後です。
- ファンドの年間騰落率(毎月末時点)は、毎月末とその1年前における基準価額を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。設定から1年未満の時点では算出されません。)
- 代表的な資産クラスの年間騰落率(毎月末時点)は、毎月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。)
- ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の毎月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。
- ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

○代表的な資産クラスを表す指数

日本株・・・TOPIX(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI(国債)

先進国債・・・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガンGBI-エマージング・マーケット・グローバル(円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジを行わないものとして算出されたものです。なお、MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、委託会社で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所にあります。なお、ファンドは、東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を負いません。MSCIコクサイ指数およびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性及び完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、同社が発表したMSCIコクサイ指数(配当込み、米ドルベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、米ドルベース)を委託会社にて円ベースに換算したものです。NOMURA-BPI(国債)は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権はCitigroup Index LLCに帰属しています。JPモルガンGBI-エマージング・マーケット・グローバルは、J.P.モルガン・セキュリティー・エルエルシーが発表しており、著作権はJ.P.モルガン・セキュリティー・エルエルシーに帰属しています。

（２）投資リスクに関する管理体制

< 訂正前 >

（略）

（平成26年9月末現在）

（以下略）

< 訂正後 >

（略）

（平成27年3月末現在）

（以下略）

4【手数料等及び税金】

（５）課税上の取扱い

< 訂正前 >

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

なお、税法が改正された場合には、以下の内容が変更になることがあります。以下の税制は平成26年10月末現在適用されるものです。

個別元本について

（略）

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、後記の「収益分配金の課税について」をご参照ください。）

（以下略）

< 訂正後 >

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

なお、税法が改正された場合には、以下の内容が変更になることがあります。以下の税制は平成27年3月末現在適用されるものです。

個別元本について

（略）

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、後記「収益分配金の課税について」をご参照ください。）

（以下略）

5【運用状況】

原届出書の「第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 5 運用状況」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

(1) 投資状況

(平成27年4月10日現在)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	8,188,690,841	100.14
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	11,435,448	0.14
合計(純資産総額)		8,177,255,393	100.00

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

親投資信託は、全て「GIM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」です(以下同じ)。

(参考) GIM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド

(平成27年4月10日現在)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	日本	9,323,531,050	97.90
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	199,841,095	2.10
合計(純資産総額)		9,523,372,145	100.00

(注) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成27年4月10日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	GIM中小型株・アクティブ・ オープン・マザーファンド	5,425,129,748	1.2203	6,620,472,171	1.5094	8,188,690,841	100.14

(参考) GIM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド

(平成27年4月10日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	株式数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	楽天	サービス業	166,100	1,474.01	244,834,201	2,357.50	391,580,750	4.11
2	日本	株式	サイバーエージェント	サービス業	48,000	4,342.12	208,421,760	6,970.00	334,560,000	3.51
3	日本	株式	ドンキホーテホールディングス	小売業	27,400	7,116.27	194,985,913	10,840.00	297,016,000	3.12
4	日本	株式	日本電産	電気機器	36,400	6,958.00	253,271,200	8,033.00	292,401,200	3.07
5	日本	株式	朝日インテック	精密機器	33,600	4,705.00	158,088,000	8,380.00	281,568,000	2.96
6	日本	株式	サンエー	小売業	45,100	3,555.00	160,330,500	5,040.00	227,304,000	2.39
7	日本	株式	ニフコ	化学	45,700	3,961.05	181,020,126	4,505.00	205,878,500	2.16
8	日本	株式	シスメックス	電気機器	28,800	5,429.50	156,369,600	7,140.00	205,632,000	2.16
9	日本	株式	イオンフィナンシャルサービス	その他金融業	67,400	2,295.48	154,715,352	3,015.00	203,211,000	2.13
10	日本	株式	オムロン	電気機器	37,000	4,983.94	184,405,862	5,480.00	202,760,000	2.13
11	日本	株式	カルビー	食料品	35,600	4,285.99	152,581,288	5,570.00	198,292,000	2.08
12	日本	株式	ディスコ	機械	15,600	12,315.38	192,119,966	12,370.00	192,972,000	2.03
13	日本	株式	リロ・ホールディング	サービス業	16,600	7,742.85	128,531,387	11,470.00	190,402,000	2.00
14	日本	株式	カシオ計算機	電気機器	82,700	1,762.98	145,798,446	2,255.00	186,488,500	1.96
15	日本	株式	エムスリー	サービス業	73,600	1,714.00	126,150,400	2,533.00	186,428,800	1.96
16	日本	株式	エフピコ	化学	39,700	3,502.36	139,044,084	4,585.00	182,024,500	1.91
17	日本	株式	ローム	電気機器	22,700	6,625.93	150,408,611	7,940.00	180,238,000	1.89
18	日本	株式	アサヒグループホールディングス	食料品	42,500	3,718.32	158,028,703	4,136.50	175,801,250	1.85

19	日本	株式	ミスミグループ本社	卸売業	34,300	3,310.00	113,533,000	4,785.00	164,125,500	1.72
20	日本	株式	パーク24	不動産業	64,000	1,678.69	107,436,160	2,488.00	159,232,000	1.67
21	日本	株式	日本証券金融	その他金融業	194,000	767.57	148,908,635	805.00	156,170,000	1.64
22	日本	株式	小野薬品工業	医薬品	11,800	9,400.00	110,920,000	13,190.00	155,642,000	1.63
23	日本	株式	日本取引所グループ	その他金融業	40,400	2,785.91	112,550,764	3,850.00	155,540,000	1.63
24	日本	株式	新明和工業	輸送用機器	127,000	981.00	124,587,000	1,211.00	153,797,000	1.61
25	日本	株式	ペプチドリーム	医薬品	15,900	9,976.51	158,626,509	9,470.00	150,573,000	1.58
26	日本	株式	ヤフー	情報・通信業	279,600	430.06	120,244,776	531.00	148,467,600	1.56
27	日本	株式	スズキ	輸送用機器	36,200	3,708.71	134,255,317	3,667.00	132,745,400	1.39
28	日本	株式	バンダイナムコホールディングス	その他製品	52,900	2,681.01	141,825,429	2,496.00	132,038,400	1.39
29	日本	株式	アニコムホールディングス	保険業	48,800	1,129.00	55,095,200	2,491.00	121,560,800	1.28
30	日本	株式	スルガ銀行	銀行業	44,300	2,190.45	97,036,935	2,697.00	119,477,100	1.25

種類別および業種別投資比率

(平成27年4月10日現在)

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	100.14

(参考) G I M 中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド

(平成27年4月10日現在)

種類	国内/外国	業種	投資比率(%)
株式	国内	建設業	1.26
		食料品	3.93
		化学	7.91
		医薬品	5.53
		ゴム製品	0.79
		ガラス・土石製品	2.15
		鉄鋼	0.50
		非鉄金属	0.20
		金属製品	0.98
		機械	4.44
		電気機器	12.73
		輸送用機器	3.75
		精密機器	4.64
		その他製品	1.98
		情報・通信業	6.99
		卸売業	3.80
		小売業	7.63
		銀行業	1.25
		保険業	1.28
		その他金融業	5.93
不動産業	2.79		
サービス業	17.44		
合計			97.90

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの
該当事項はありません。

(3) 運用実績

純資産の推移

平成27年4月10日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額 (円) (分配落)	1口当たり 純資産額 (円) (分配付)
6期	(平成17年9月12日)	2,224	2,224	1.1118	1.1118
7期	(平成18年9月11日)	11,833	11,833	1.2565	1.2565
8期	(平成19年9月10日)	9,107	9,107	1.0459	1.0459
9期	(平成20年9月10日)	4,159	4,159	0.6233	0.6233
10期	(平成21年9月10日)	3,312	3,312	0.5489	0.5489
11期	(平成22年9月10日)	2,283	2,283	0.4498	0.4498
12期	(平成23年9月12日)	1,958	1,958	0.4587	0.4587
13期	(平成24年9月10日)	1,617	1,617	0.4569	0.4569
14期	(平成25年9月10日)	12,578	12,578	0.8448	0.8448
15期	(平成26年9月10日)	9,815	9,815	0.9723	0.9723
	平成26年4月末日	12,469	-	0.8253	-
	平成26年5月末日	12,806	-	0.8553	-
	平成26年6月末日	12,576	-	0.9086	-
	平成26年7月末日	11,784	-	0.9475	-
	平成26年8月末日	10,125	-	0.9774	-
	平成26年9月末日	9,632	-	0.9883	-
	平成26年10月末日	9,222	-	0.9813	-
	平成26年11月末日	8,485	-	1.0106	-
	平成26年12月末日	8,344	-	1.0222	-
	平成27年1月末日	8,116	-	1.0258	-
	平成27年2月末日	8,066	-	1.1025	-
	平成27年3月末日	8,073	-	1.1533	-
	平成27年4月10日	8,177	-	1.1969	-

分配の推移

期	1口当たり分配金(円)
6期	0.0000
7期	0.0000
8期	0.0000
9期	0.0000
10期	0.0000
11期	0.0000
12期	0.0000
13期	0.0000
14期	0.0000

15期	0.0000
16期（中間期）	0.0000

収益率の推移

期	収益率（％）
6期	12.9
7期	13.0
8期	16.8
9期	40.4
10期	11.9
11期	18.1
12期	2.0
13期	0.4
14期	84.9
15期	15.1
16期（中間期）	14.0

（注）収益率とは計算期間末の基準価額（分配付）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落）（以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除したものです。

（４）設定及び解約の実績

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の残存口数は次の通りです。

期	設定口数（口）	解約口数（口）	残存口数（口）
6期	4,016,952,594	4,584,813,919	2,000,435,816
7期	14,229,757,176	6,812,517,109	9,417,675,883
8期	1,262,160,193	1,972,336,343	8,707,499,733
9期	752,037,282	2,786,464,620	6,673,072,395
10期	302,849,541	941,411,443	6,034,510,493
11期	202,871,656	1,161,067,105	5,076,315,044
12期	204,123,017	1,010,399,150	4,270,038,911
13期	131,807,386	862,958,486	3,538,887,811
14期	14,635,629,902	3,285,378,504	14,889,139,209
15期	5,579,401,474	10,373,379,972	10,095,160,711
16期（中間期）	646,951,295	3,670,300,302	7,071,811,704

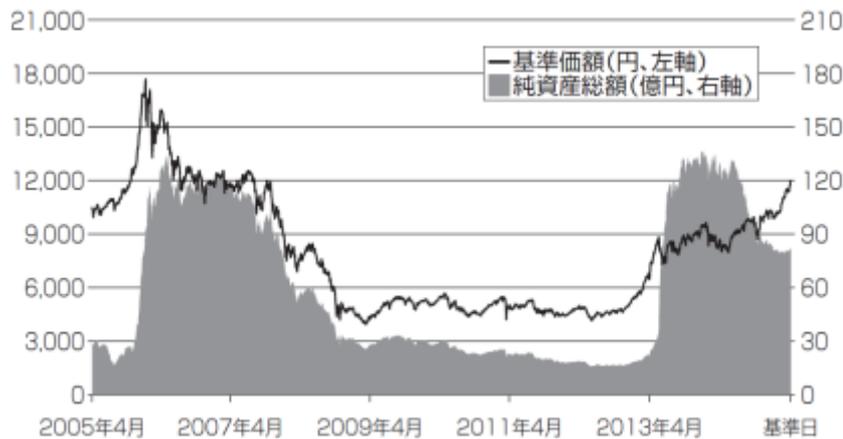
（注）設定口数、解約口数は、全て本邦内におけるものです。

<参考情報>

最新の運用実績は、委託会社ホームページ（<http://www.jpmorganasset.co.jp/>）、または販売会社でご確認いただけます。
過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準日	2015年4月10日	設定日	2000年5月12日
純資産総額	81億円	決算回数	年1回

基準価額・純資産の推移



* 基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

分配の推移

期	年月	円
11期	2010年9月	0
12期	2011年9月	0
13期	2012年9月	0
14期	2013年9月	0
15期	2014年9月	0
	設定来累計	0

* 分配金は税引前1万口当たりの金額です。

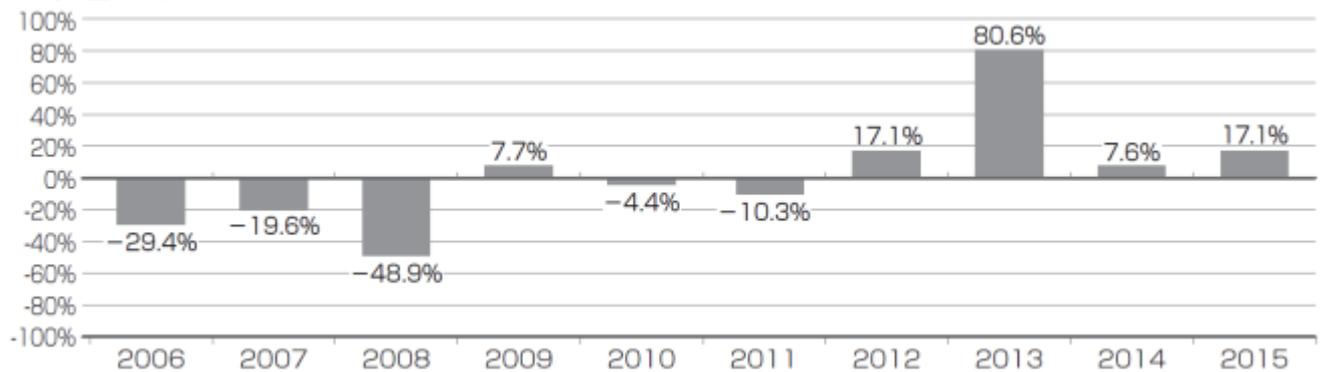
組入上位銘柄

順位	銘柄名	業種	投資比率*
1	楽天	サービス業	4.1%
2	サイバーエージェント	サービス業	3.5%
3	ドンキホーテホールディングス	小売業	3.1%
4	日本電産	電気機器	3.1%
5	朝日インテック	精密機器	3.0%
6	サンエー	小売業	2.4%
7	ニフコ	化学	2.2%
8	シスメックス	電気機器	2.2%
9	イオンフィナンシャルサービス	その他金融業	2.1%
10	オムロン	電気機器	2.1%

業種別構成状況

業種	投資比率
サービス業	17.5%
電気機器	12.7%
化学	7.9%
小売業	7.6%
情報・通信業	7.0%
その他	45.3%

年間収益率の推移



* 年間収益率(%) = (年末営業日の基準価額 ÷ 前年末営業日の基準価額 - 1) × 100

* 2015年の年間収益率は前年末営業日から2015年4月10日までのものです。

* 当ページにおける「ファンド」は、JPM中小型株・アクティブ・オープンです。

運用実績において、金額は表示単位以下を切捨て、投資比率および収益率は表示単位以下を四捨五入して記載しています。

ファンドはマザーファンドを通じて投資を行うため、マザーファンドの投資銘柄をファンドが直接保有しているものとみなし、ファンドの純資産総額に対する投資比率として計算しています。

第3【ファンドの経理状況】

<訂正前>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第15期計算期間（平成25年9月11日から平成26年9月10日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

当ファンドおよび当ファンドの主要投資対象であるマザーファンドは約款変更を行い、平成25年12月10日付けで当ファンドの名称は「JF中小型株・アクティブ・オープン」から「JPM中小型株・アクティブ・オープン」に、マザーファンドの名称は「JF中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」から「JPM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」に変更しました。

<訂正後>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

また、当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表および中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第15期計算期間（平成25年9月11日から平成26年9月10日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

また、当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（平成26年9月11日から平成27年3月10日まで）の中間財務諸表について、あらた監査法人による中間監査を受けております。

当ファンドおよび当ファンドの主要投資対象であるマザーファンドは約款変更を行い、平成25年12月10日付けで当ファンドの名称は「JF中小型株・アクティブ・オープン」から「JPM中小型株・アクティブ・オープン」に、マザーファンドの名称は「JF中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」から「JPM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」に変更しました。

原届出書の「第二部ファンド情報 第3ファンドの経理状況 1財務諸表」について、以下の中間財務諸表に関する事項が追加されます。

<追加>

中間財務諸表

【 J P M 中小型株・アクティブ・オープン】

(1) 【 中間貸借対照表】

(単位：円)

	前計算期間末 (平成26年 9月10日現在)	当中間計算期間末 (平成27年 3月10日現在)
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	9,917,199,946	7,911,988,577
未収入金	118,057,056	141,375,781
流動資産合計	10,035,257,002	8,053,364,358
資産合計	10,035,257,002	8,053,364,358
負債の部		
流動負債		
未払解約金	118,057,056	141,375,781
未払受託者報酬	6,574,692	4,577,675
未払委託者報酬	94,017,987	65,460,754
その他未払費用	1,314,870	915,474
流動負債合計	219,964,605	212,329,684
負債合計	219,964,605	212,329,684
純資産の部		
元本等		
元本	1 10,095,160,711	1 7,071,811,704
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 ()	2 279,868,314	2 769,222,970
(分配準備積立金)	833,906,335	542,488,844
元本等合計	9,815,292,397	7,841,034,674
純資産合計	9,815,292,397	7,841,034,674
負債純資産合計	10,035,257,002	8,053,364,358

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前中間計算期間 (自 平成25年 9月11日 至 平成26年 3月10日)	当中間計算期間 (自 平成26年 9月11日 至 平成27年 3月10日)
営業収益		
有価証券売買等損益	763,126,680	1,147,482,822
営業収益合計	763,126,680	1,147,482,822
営業費用		
受託者報酬	6,786,392	4,577,675
委託者報酬	97,045,407	65,460,754
その他費用	1,357,216	915,474
営業費用合計	105,189,015	70,953,903
営業利益	657,937,665	1,076,528,919
経常利益	657,937,665	1,076,528,919
中間純利益	657,937,665	1,076,528,919
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	225,555,325	125,002,870
期首剰余金又は期首欠損金 ()	2,310,479,273	279,868,314
剰余金増加額又は欠損金減少額	670,422,552	100,170,360
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	670,422,552	100,170,360
剰余金減少額又は欠損金増加額	507,959,861	2,605,125
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	507,959,861	2,605,125
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金 ()	1,715,634,242	769,222,970

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	当中間財務諸表対象期間
有価証券の評価基準および評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。

(中間貸借対照表に関する注記)

区分	前計算期間末 (平成26年9月10日現在)	当中間計算期間末 (平成27年3月10日現在)
1 信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中解約元本額		
期首元本額	14,889,139,209円	10,095,160,711円
期中追加設定元本額	5,579,401,474円	646,951,295円
期中一部解約元本額	10,373,379,972円	3,670,300,302円
2 元本の欠損	中間貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は279,868,314円であります。	-
受益権の総数	10,095,160,711口	7,071,811,704口
1口当たりの純資産額 (1万口当たりの純資産額)	0.9723円 (9,723円)	1.1088円 (11,088円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

	前計算期間末または当中間計算期間末
1. 中間貸借対照表計上額、時価およびその差額	中間貸借対照表計上額は前計算期間末または当中間計算期間末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは「JPM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、全て同親投資信託の受益証券であります。

尚、同親投資信託の状況は以下の通りであります。

「JPM中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド」の状況

尚、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

（１）貸借対照表

（単位：円）

区分	注記 番号	（平成26年9月10日現在）	（平成27年3月10日現在）
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		441,210,538	145,257,286
株式		10,785,076,750	8,920,608,100
未収入金		100,218,680	237,706,912
未収配当金		3,750,163	4,782,650
未収利息		241	79
流動資産合計		11,330,256,372	9,308,355,027
資産合計		11,330,256,372	9,308,355,027
負債の部			
流動負債			
未払金		54,533,460	-
未払解約金		122,209,159	149,206,378
流動負債合計		176,742,619	149,206,378
負債合計		176,742,619	149,206,378
純資産の部			
元本等			
元本	1	9,176,400,394	6,558,977,278
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		1,977,113,359	2,600,171,371
元本等合計		11,153,513,753	9,159,148,649
純資産合計		11,153,513,753	9,159,148,649
負債純資産合計		11,330,256,372	9,308,355,027

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	当財務諸表対象期間
有価証券の評価基準および評価方法	<p>株式および投資証券</p> <p>移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1)金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。 計算期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でないと認められた場合は、当該金融商品取引所等における計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。</p> <p>(2)金融商品取引所等に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3)時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

区分	(平成26年9月10日現在)	(平成27年3月10日現在)
1 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額、期中追加設定元本額および期中解約元本額		
期首元本額	13,259,198,504円	9,176,400,394円
期中追加設定元本額	4,728,387,203円	591,171,668円
期中解約元本額	8,811,185,313円	3,208,594,784円
元本の内訳（注）		
JPM中小型株・アクティブ・オープン	8,158,946,891円	5,665,990,101円
JPM日本中小型株ファンド	870,049,202円	788,146,929円
JPM中小型株・アクティブ・ポートフォリオ	41,636,886円	36,692,128円
JPM FOFs用中小型株・アクティブ・オープンF（適格機関投資家専用）	105,767,415円	68,148,120円
合計	9,176,400,394円	6,558,977,278円
受益権の総数	9,176,400,394口	6,558,977,278口
1口当たりの純資産額	1.2155円	1.3964円
（1万口当たりの純資産額）	（12,155円）	（13,964円）

（注）当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

	各期間末

1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によつた場合、当該価額が異なることもあります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

原届出書の「第二部ファンド情報 第3ファンドの経理状況 2ファンドの現況」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

純資産額計算書

(平成27年4月10日現在)

種類	金額	単位
資産総額	8,271,394,349	円
負債総額	94,138,956	円
純資産総額(-)	8,177,255,393	円
発行済口数	6,832,244,231	口
1口当たり純資産額(/)	1.1969	円

(参考) G I M中小型株・アクティブ・オープン・マザーファンド

(平成27年4月10日現在)

種類	金額	単位
資産総額	9,687,480,509	円
負債総額	164,108,364	円
純資産総額(-)	9,523,372,145	円
発行済口数	6,309,327,549	口
1口当たり純資産額(/)	1.5094	円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

資本金の額（平成26年10月末現在）

（略）

投資運用の意思決定機構

（略）

（注）前記（イ）、（ロ）および（ハ）の意思決定機構、組織名称等は、平成26年10月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

資本金の額（平成27年4月末現在）

（略）

投資運用の意思決定機構

（略）

（注）前記（イ）、（ロ）および（ハ）の意思決定機構、組織名称等は、平成27年4月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

<訂正前>

（略）

委託会社が設定・運用している投資信託は、平成26年10月末現在以下のとおりです（親投資信託は本数のみ。）。

	本数	純資産額（百万円）
公募追加型株式投資信託	71	824,604
公募単位型株式投資信託	4	12,805
公募追加型債券投資信託	2	423,508
公募単位型債券投資信託	-	-
私募投資信託	62	1,030,837
総合計	139	2,291,754
親投資信託	62	-

（注）百万円未満は四捨五入

<訂正後>

（略）

委託会社が設定・運用している投資信託は、平成27年4月末現在以下のとおりです（親投資信託は本数のみ。）。

	本数	純資産額（百万円）
公募追加型株式投資信託	74	709,022
公募単位型株式投資信託	1	2,586
公募追加型債券投資信託	1	349,081
公募単位型債券投資信託	-	-
私募投資信託	65	1,384,304
総合計	141	2,444,993
親投資信託	62	-

（注）百万円未満は四捨五入

3【委託会社等の経理状況】

<訂正前>

1. 委託会社であるJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」という。)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号。以下「金融商品取引業等に関する内閣府令」という。)に基づいて作成しております。

第24期事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

なお、財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第24期事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

<訂正後>

1. 委託会社であるJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」という。)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号。以下「金融商品取引業等に関する内閣府令」という。)に基づいて作成しております。

第24期事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条及び第57条に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」に基づいて作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第24期事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

また、第25期中間会計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あらた監査法人により中間監査を受けております。

原届出書の「第三部委託会社等の情報 第1委託会社等の概況 3委託会社等の経理状況」について、以下の中間財務諸表が追加されます。

<追加>

[次へ](#)

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

		第25期中間会計期間末 (平成26年9月30日)		
資産の部				
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)
流動資産				
現金及び預金			3,882,204	
有価証券			7,113,715	
前払費用			55,697	
未収入金			110,485	
未収委託者報酬			4,138,178	
未収収益			2,516,175	
関係会社短期貸付金			2,749,000	
繰延税金資産			611,153	
その他			6,232	
流動資産計			21,182,843	97.6
固定資産				
投資その他の資産			515,935	
関係会社株式		60,000		
投資有価証券		21,747		
長期預け金		231,748		
敷金保証金		27,519		
繰延税金資産		126,742		
前払年金費用		9,857		
その他		38,319		
固定資産計			515,935	2.4
資産合計			21,698,779	100.0

		第25期中間会計期間末 (平成26年9月30日)		
負債の部				
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)
流動負債				
預り金			112,242	
未払金			3,111,311	
未払手数料		1,986,415		
その他未払金	1	1,124,896		
未払費用			723,530	
未払法人税等			1,013,177	
賞与引当金			1,176,120	
流動負債計			6,136,382	28.3
固定負債				
長期未払金			242,176	
賞与引当金			572,927	
役員賞与引当金			154,823	
固定負債計			969,927	4.5
負債合計			7,106,309	32.7

		第25期中間会計期間末 (平成26年9月30日)		
純資産の部				
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)
株主資本				
資本金			2,218,000	
資本剰余金			1,000,000	
資本準備金		1,000,000		
利益剰余金			11,374,638	
利益準備金		33,676		
その他利益剰余金				
繰越利益剰余金		11,340,961		
株主資本計			14,592,638	67.3
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金			168	
評価・換算差額等計			168	0.0
純資産合計			14,592,469	67.3
負債・純資産合計			21,698,779	100.0

(2) 中間損益計算書

		第25期中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)		
区分	注記 番号	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)
営業収益				
委託者報酬			8,123,902	
運用受託報酬			3,495,885	
業務受託報酬			763,622	
その他			81,811	
営業収益計			12,465,222	100.0
営業費用・一般管理費				
営業費用			5,432,252	
支払手数料		3,762,883		
調査費		1,303,533		
その他営業費用		365,835		
一般管理費			5,354,228	
営業費用・一般管理費計			10,786,481	86.5
営業利益			1,678,740	13.5
営業外収益	1	113,187		
営業外収益計			113,187	0.9
営業外費用	2	10,268		
営業外費用計			10,268	0.1
経常利益			1,781,660	14.3
税引前中間純利益			1,781,660	14.3
法人税、住民税及び事業税			995,832	8.0
法人税等調整額			284,512	2.3
中間純利益			1,070,340	8.6

重要な会計方針

項目	第25期中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1. 有価証券の評価基準 及び評価方法	<p>(1) 関係会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>
2. 引当金の計上基準	<p>(1) 賞与引当金 従業員に対する賞与の支給、及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の費用負担に備えるため、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金 役員に対する賞与の支給、及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の費用負担に備えるため、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員に対する退職給付に備えるため、当中間期末における退職給付債務と年金資産の見込額に基づき退職給付引当金を計上しております。ただし、当中間期末においては、年金資産の額が、退職給付債務に未認識数理計算上の差異等を加減した額を超過するため、資産の部に前払年金費用を計上しております。 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間期末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。 過去勤務債務については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により、発生した事業年度から費用処理しております。 数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分額を、それぞれ発生した翌事業年度から費用処理することとしております。</p>
3. その他中間財務諸表 作成のための基本となる重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>

注記事項

（中間貸借対照表関係）

第25期中間会計期間末 （平成26年9月30日）	
1	消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他未払金」に含めて表示しております。

（中間損益計算書関係）

第25期中間会計期間 （自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）	
1	営業外収益のうち主要なもの（千円） 投資有価証券売却益 90,954
2	営業外費用のうち主要なもの（千円） 為替差損 10,168

（リース取引関係）

第25期中間会計期間末 （平成26年9月30日）	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。	
1年以内	534,002 千円
1年超	306,891 千円
合計	840,893 千円

（金融商品関係）

第25期中間会計期間末（平成26年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成26年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、金額的重要性が低いと判断するものは次表には含めておりません。また、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めておりません（注）2．参照）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,882,204	3,882,204	-
(2) 有価証券	7,113,715	7,113,715	-
(3) 未収委託者報酬	4,138,178	4,138,178	-
(4) 未収収益	2,516,175	2,516,175	-
(5) 関係会社短期貸付金	2,749,000	2,749,000	-
(6) 投資有価証券	21,747	21,747	-
(7) 長期預け金	231,748	231,523	224
資産計	20,652,770	20,652,546	224
(1) 未払手数料	1,986,415	1,986,415	-
(2) その他未払金	1,124,896	1,124,896	-
(3) 未払費用	723,530	723,530	-
(4) 長期未払金	242,176	241,962	213
負債計	4,077,018	4,076,805	213

（注）1．金融商品の時価算定方法

資産

(1) 現金及び預金、(2) 有価証券、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収収益、及び(5) 関係会社短期貸付金
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

これらは投資信託であり、時価は市場価格に準ずるものとして合理的に算定された価額によっております。

(7) 長期預け金

長期預け金の時価については、当該預け金の受取までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金、及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期未払金

長期未払金の時価については、当該未払金の支払までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

（注）2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	60,000

関係会社株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表に含めておりません。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(有価証券関係)

第25期中間会計期間末（平成26年9月30日）

1．関係会社株式

関係会社株式（貸借対照表計上額 60,000千円）については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、記載しておりません。

2．その他有価証券

(単位：千円)

	種類	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他投資信託	21,747	22,010	262
合計		21,747	22,010	262

(注) 有価証券（中間貸借対照表計上額 7,113,715千円）については預金と同様に扱っており、時価評価をしていないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第25期中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

1. サービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託 業務	投資一任及び 投資助言業務	業務受託報酬	その他	合計
外部顧客への売上高	8,123,902	3,495,885	763,622	81,811	12,465,222

2. 地域ごとの情報

営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
10,511,536	1,953,685	12,465,222

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

（1株当たり情報）

第25期中間会計期間 （自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）	
1株当たり純資産額	259,352円52銭
1株当たり中間純利益金額	19,023円20銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
1株当たりの中間純利益の算定上の基礎	
中間損益計算書上の中間純利益	1,070,340千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る中間純利益	1,070,340千円
普通株式の期中平均株式数	56,265株

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

原届出書の「第三部委託会社等の情報 第2 その他の関係法人の概況 1 名称、資本金の額及び事業の内容」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

(1) 受託会社

名 称 みずほ信託銀行株式会社
 資本金の額 247,369百万円（平成26年9月末現在）
 事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>

名 称 : 資産管理サービス信託銀行株式会社
 事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（資産管理サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2) 販売会社

	名 称	資本金の額 (平成26年9月末現在)	事業の内容
1	J P モルガン証券株式会社	73,272百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
2	カブドットコム証券株式会社	7,196百万円	同 上
3	株式会社S B I証券	47,937百万円	同 上
4	岩井コスモ証券株式会社	13,500百万円	同 上
5	エース証券株式会社	8,831百万円	同 上
6	岡三証券株式会社	5,000百万円	同 上
7	岡安証券株式会社	650百万円	同 上
8	ばんせい証券株式会社	1,558百万円	同 上
9	リーディング証券株式会社	1,768百万円	同 上
10	高木証券株式会社	11,069百万円	同 上
11	ちばぎん証券株式会社	4,374百万円	同 上
12	楽天証券株式会社	7,495百万円	同 上
13	内藤証券株式会社*	3,002百万円	同 上

14	S M B C 日興証券株式会社	10,000百万円	同 上
15	マネックス証券株式会社	12,200百万円	同 上
16	キャピタル・パートナーズ証券株式会社	1,000百万円	同 上
17	山和証券株式会社	585百万円	同 上
18	リテラ・クリア証券株式会社	3,794百万円	同 上
19	立花証券株式会社*	6,695百万円	同 上
20	株式会社愛知銀行*	18,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
21	株式会社イオン銀行	51,250百万円	同 上
22	株式会社沖縄銀行	22,725百万円	同 上
23	株式会社筑波銀行	48,868百万円	同 上
24	スルガ銀行株式会社	30,043百万円	同 上
25	株式会社北海道銀行	93,524百万円	同 上
26	三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
27	日本生命保険相互会社	200,000百万円 (基金の総額)	保険業法に基づき生命保険業を営んでいます。

* 募集の取扱い以外の業務を行っています。

独立監査人の中間監査報告書

平成27年4月22日

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 荒川 進

指定社員
業務執行社員 公認会計士 和田 渉

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJPM中小型株・アクティブ・オープンの平成26年9月11日から平成27年3月10日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、JPM中小型株・アクティブ・オープンの平成27年3月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成26年9月11日から平成27年3月10日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

JPMモルガン・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月12日

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているJ Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第25期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。